

# 宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

## 令和7年第49週 (ARIのみ第48週) の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (49 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 3 例。  
 3 類感染症：報告なし。4 類感染症：つつが虫病 4 例、日本紅斑熱 1 例。  
 5 類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、梅毒 1 例、百日咳 5 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	都城	30歳代	男	肺結核	なし
			90歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			90歳代	女	肺結核	なし
4類	つつが虫病	都城	80歳代	男	—	発熱、発疹
		小林	50歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
			60歳代	男	—	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹
			80歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
	日本紅斑熱	都城	70歳代	女	—	発熱、頭痛、刺し口、発疹
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	都城	70歳代	男	—	発熱、咳、肺炎、菌血症
	梅毒	日南	50歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹
	百日咳	都城	0～4歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐
		延岡	5～9歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み
			10歳代	女	—	持続する咳
		高鍋	5～9歳	男	—	持続する咳
			10歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み

### □ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・第 49 週の定点医療機関からの報告総数(急性呼吸器感染症除く)は 2,037 人(定点当たり 81.6)で、前週比 143%と増加した。

なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は伝染性紅斑であった。

また、第 48 週の急性呼吸器感染症の報告総数は 2,144 人(定点当たり 76.6)で、前週比 105%と増加した。

#### 【インフルエンザ】

報告数は 1,751 人(62.5)で、前週比 165%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(3.8)の約 16.4 倍であった。年齢群別は 15 歳未満が全体の約 8 割を占めた。

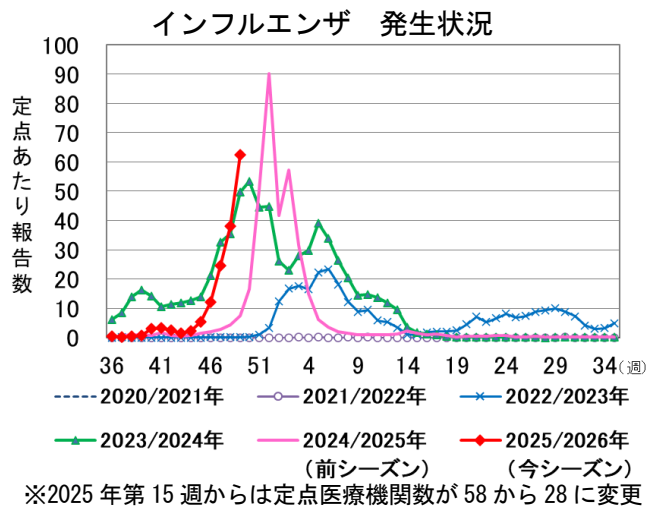
#### 【伝染性紅斑】

報告数は 43 人(2.9)で、前週比 80%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.59)の約 4.9 倍であった。年齢群別は 6 歳から 9 歳が全体の約半数を占めた。

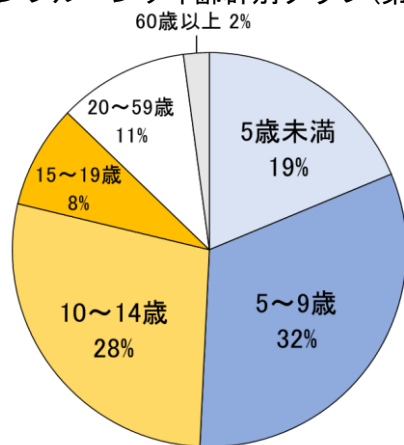
#### 【感染性胃腸炎】

報告数は 109 人(7.3)で、前週比 106%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(13.7)の約 0.5 倍であった。年齢群別は 1 歳から 5 歳が全体の約 6 割を占めた。

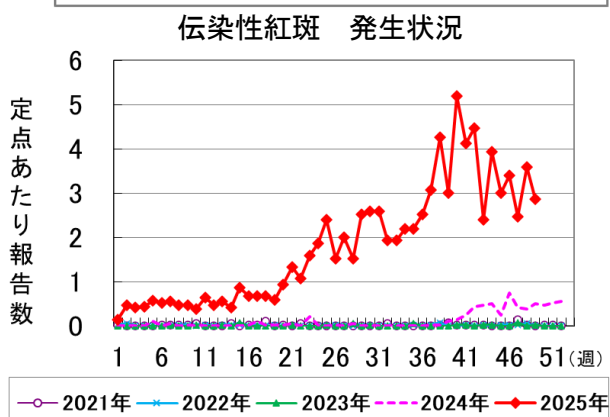
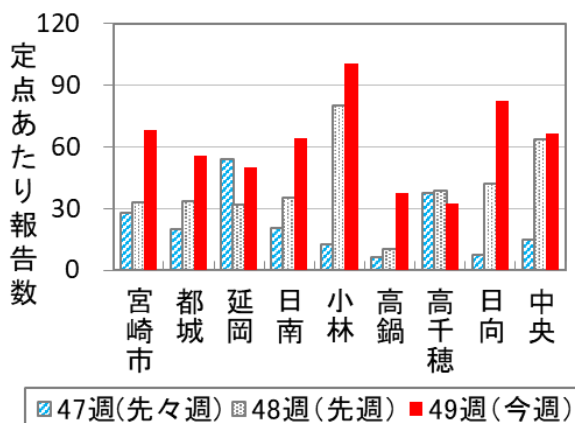
\* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015～2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値



インフルエンザ年齢群別グラフ (第 49 週)

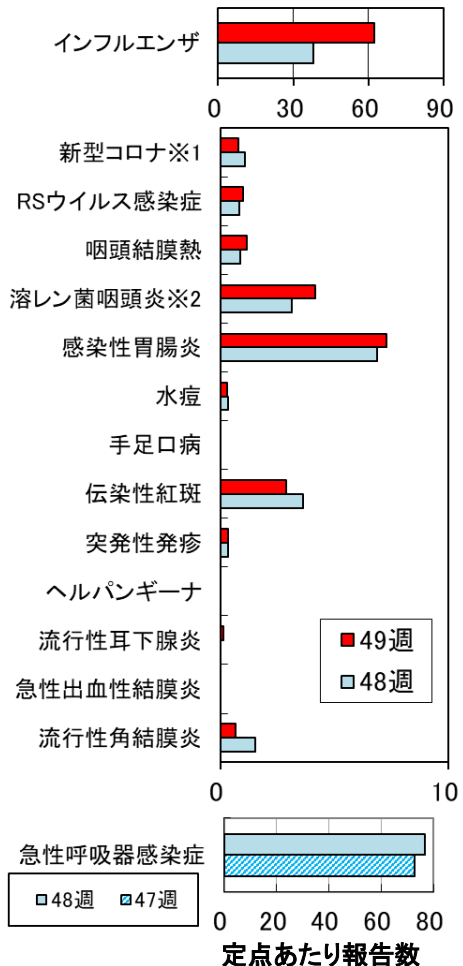


インフルエンザ 保健所別推移 (3 週分)



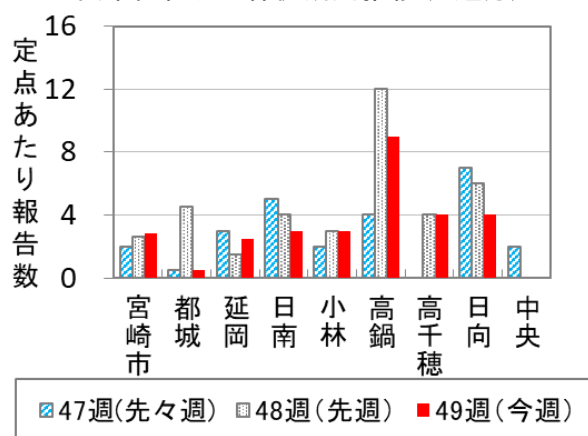
※2025 年第 15 週からは定点医療機関数が 36 から 15 に変更

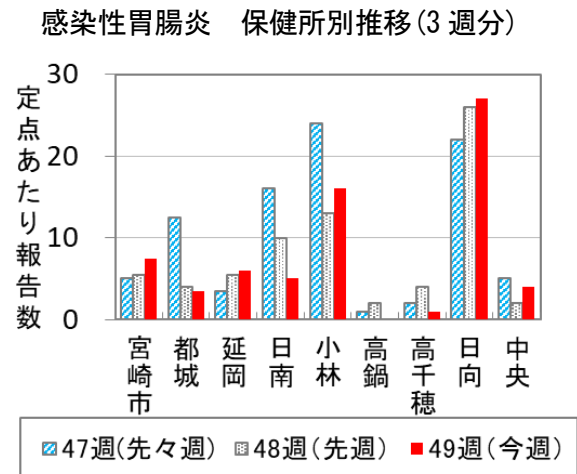
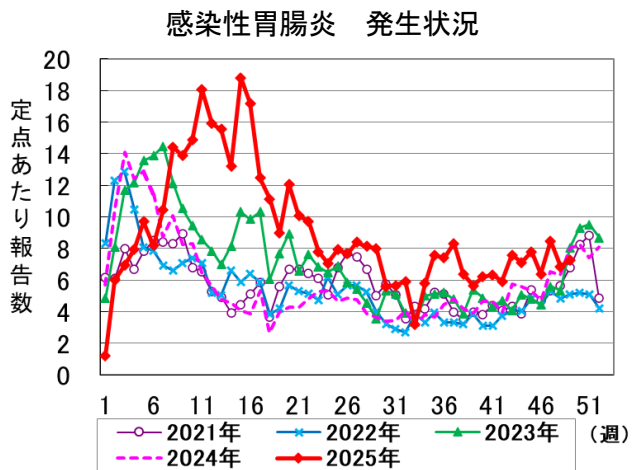
《前週との比較》



※1 新型コロナウイルス感染症  
 ※2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

伝染性紅斑 保健所別推移 (3 週分)





★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は 3 例(定点当たり 0.43)で、宮崎市(3 例)保健所から報告があった。年齢はいずれも 5～9 歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	インフルエンザ(68.1)、伝染性紅斑(2.8)
都城	インフルエンザ(55.8)
延岡	インフルエンザ(49.7)、伝染性紅斑(2.5)
日南	インフルエンザ(64.0)、伝染性紅斑(3.0)
小林	インフルエンザ(100.5)、伝染性紅斑(3.0)
高鍋	インフルエンザ(37.5)、咽頭結膜熱(5.0)、伝染性紅斑(9.0)
高千穂	インフルエンザ(32.5)、伝染性紅斑(4.0)
日向	インフルエンザ(82.0)、感染性胃腸炎(27.0)、伝染性紅斑(4.0)
中央	インフルエンザ(66.5)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・インフルエンザ(30)
- ・咽頭結膜熱(3)
- ・感染性胃腸炎(20)
- ・伝染性紅斑(2)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部）

★急性呼吸器感染症 (Acute Respiratory Infection : ARI)

(2025 年第 48 週:11 月 24 日～11 月 30 日搬入分)

検出病原体			検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	5
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス			1
RSウイルス	A型		1
	B型		0
パラインフルエンザウイルス	1型		0
	2型		0
	3型		0
	4型		0
ヒトメタニューモウイルス			0
ライノウイルス			5
エンテロウイルス			0
アデノウイルス			0
インフルエンザウイルスAH3・ライノウイルス			1
パラインフルエンザウイルス1型・ライノウイルス			1
検出せず※2			3
受付検体数			17

○ 急性呼吸器感染症 (ARI) ※<sup>1</sup>サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※<sup>1</sup> 急性呼吸器感染症 (ARI)：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか 1 つ以上の症状を呈し、発症から 10 日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※<sup>2</sup> 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

(細菌・ウイルスについては 2025 年 12 月 8 日までに検出分)

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Klebsiella pneumoniae</i> TEM(+),SHV(+),CTX-M-1 group(+)	20歳代	女	2025.11.08	発熱、膀胱炎	分離株	2025.11.28
<i>Weissella confusa</i>	90歳代	男	2025.11.17	発熱、肺炎、けいれん	血液	2025.12.02
EHEC (O115:H10 VT1)	20歳代	男	2025.11.18	なし	便	2025.12.03
EHEC (Og113:HNM VT2)	60歳代	男	2025.11.18	なし	便	2025.11.28

○20 代女性から基質拡張型  $\beta$  ラクタマーゼ (ESBL) を産生する *Klebsiella pneumoniae* が検出された。検出された ESBL 遺伝子は TEM 型、SHV 型、CTX-M-1 group であった。

90 代男性から *Weissella confusa* が検出された。*Weissella confusa* はバンコマイシンに自然耐性を示すグラム陽性桿菌であり、免疫不全患者においては敗血症を引き起こすことが報告されている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Parainfluenza virus 2	0～4歳	男	2025.10.07	突発性発疹、38.4℃	鼻腔ぬぐい液	2025.11.25
Sapovirus	0～4歳	男	2025.10.07	感染性胃腸炎、下痢	便	2025.11.25
Echovirus 18	0～4歳	男	2025.10.08	エコーウイルス疑い、発疹	咽頭ぬぐい液	2025.11.28
Human herpes virus 6	0～4歳	男	2025.10.20	突発性発疹、39.0℃	咽頭ぬぐい液	2025.11.25
Parvovirus B19	0～4歳	男	2025.11.18	麻疹、39.6℃、バラ疹	全血	2025.11.28
Rhinovirus			2025.11.18		咽頭ぬぐい液	2025.11.28
Influenza virus A H3※	20歳代	女	2025.10.28	急性気管支炎、38.7℃、咽頭痛、咽頭炎、扁桃炎	鼻腔ぬぐい液	2025.12.02
Influenza virus A H3※	5～9歳	男	2025.11.04	インフルエンザA、39.5℃、咽頭炎、気管支炎	鼻汁	2025.12.02
Influenza virus A H3※	20歳代	女	2025.11.05	インフルエンザA、38.2℃、頭痛、咽頭痛、咳、痰	鼻腔ぬぐい液	2025.12.02
Influenza virus A H3※	5～9歳	男	2025.11.10	インフルエンザA、40.5℃、咽頭炎、咽頭痛、気管支炎	鼻汁	2025.12.02
Influenza virus A H3※	10歳代	女	2025.11.10	急性気管支炎、39.6℃、関節痛、気管支炎、嘔気・嘔吐	鼻汁	2025.12.02
Influenza virus A H3※	5～9歳	男	2025.11.10	インフルエンザA、40.0℃、気管支炎	鼻汁	2025.12.02
Influenza virus A H3※	10歳代	女	2025.11.10	インフルエンザA、39.5℃、咽頭痛、気管支炎	鼻汁	2025.12.02
Influenza virus A H3※	10歳代	男	2025.11.11	インフルエンザA、37.9℃、頭痛、咽頭痛、咳嗽、喀痰、鼻汁	鼻腔ぬぐい液	2025.12.02

※ ARI 病原体定点から検出されたウイルスのうち、分離されたウイルスも再掲

## ✚ 全国 2025 年第 48 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	212 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	63 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	9 例	エムボックス	1 例	オウム病	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	1 例	つつが虫病	21 例	デング熱	2 例
	日本紅斑熱	2 例	レジオネラ症	36 例	レプトスピラ症	1 例
5類感染症	アメーバ赤痢	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	11 例	急性脳炎	17 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	17 例	後天性免疫不全症候群	16 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	10 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	69 例	水痘(入院例)	7 例	梅毒	116 例
	播種性クリプトコックス症	5 例	破傷風	1 例	百日咳	380 例
	麻しん	8 例				

### □ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数（急性呼吸器感染症除く）は前週比 88%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はインフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び伝染性紅斑であった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 86%と減少した。

インフルエンザの報告数は 173,380 人(45.0)で前週比 88%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\* (2.5)の約 18.0 倍であった。埼玉県(74.8)、長野県(72.5)、福島県(64.8)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 1,343 人(0.57)で前週比 88%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\* (0.47)の約 1.2 倍であった。宮崎県(3.6)、佐賀県(3.1)、鹿児島県(2.9)からの報告が多く、年齢群別では 3 歳から 6 歳が全体の約 6 割を占めた。

\* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

疾病名		第48週	第49週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1064	1751	613	223	149	128	201	75	65	164	133
	定点当り	38.00	62.54	68.11	55.75	49.67	64.00	100.50	37.50	32.50	82.00	66.50
新型コロナウイルス感染症	報告数	30	22	6	2	2	1	4		2	2	3
	定点当り	1.07	0.79	0.67	0.50	0.67	0.50	2.00	0.00	1.00	1.00	1.50
RSウイルス感染症	報告数	12	15	3	5	4		2	1			
	定点当り	0.80	1.00	0.60	2.50	2.00	0.00	2.00	1.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	13	17	10			1	1	5			
	定点当り	0.87	1.13	2.00	0.00	0.00	1.00	1.00	5.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	47	62	29	8	12	2	1	5	1	3	1
	定点当り	3.13	4.13	5.80	4.00	6.00	2.00	1.00	5.00	1.00	3.00	1.00
感染性胃腸炎	報告数	103	109	37	7	12	5	16		1	27	4
	定点当り	6.87	7.27	7.40	3.50	6.00	5.00	16.00	0.00	1.00	27.00	4.00
水痘	報告数	5	4	3		1						
	定点当り	0.33	0.27	0.60	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	54	43	14	1	5	3	3	9	4	4	
	定点当り	3.60	2.87	2.80	0.50	2.50	3.00	3.00	9.00	4.00	4.00	0.00
突発性発しん	報告数	5	5	2	1						1	1
	定点当り	0.33	0.33	0.40	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
ヘルパンギーナ	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数		2								1	1
	定点当り	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	9	4	2	2							
	定点当り	1.50	0.67	0.67	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	5	3	3								
	定点当り	0.71	0.43	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

2025年 第48週(11月24日～11月30日)

		第47週	第48週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器感染症	報告数	2040	2144	470	261	237	173	228	102	144	296	233
	定点当り	72.86	76.57	52.22	65.25	79.00	86.50	114.00	51.00	72.00	148.00	116.50

ARI定点:28、小児科定点:15(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2025年 第1週～49週 保健所受理分)

2類感染症	結核	130例(3)		
	腸管出血性大腸菌感染症	33例		
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	1例
	つつが虫病	12例(4)	デング熱	2例
	レジオネラ症	8例	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	2例
	急性脳炎	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	16例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	21例(1)
	梅毒	114例(1)	播種性クリプトコックス症	1例
	百日咳	1,407例(5)		
			重症熱性血小板減少症候群	7例
			日本紅斑熱	33例(1)
			カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2例
			後天性免疫不全症候群	4例
			水痘(入院例)	3例
			破傷風	3例

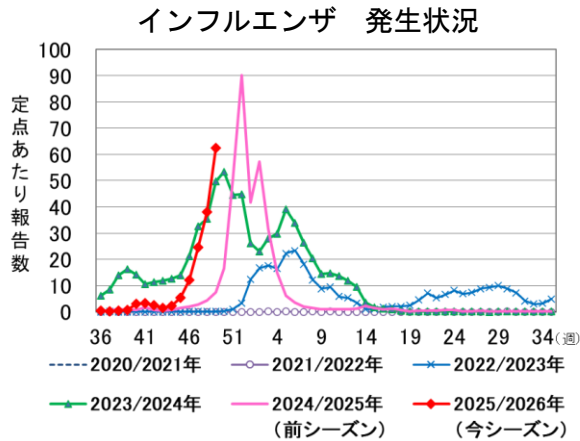
( )内は今週届出分、再掲

## インフルエンザ情報《県内第 49 週、全国第 48 週（再掲）》

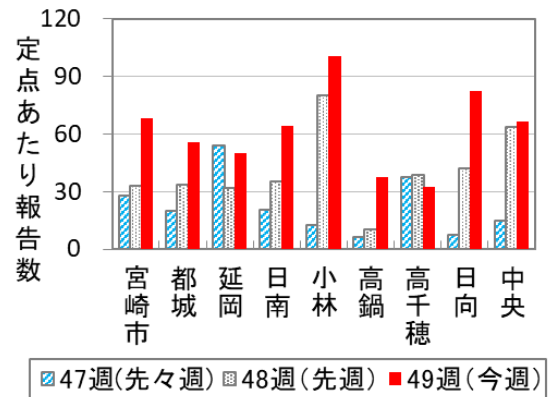
### □ 県内第 49 週インフルエンザ発生動向

12 月 1 日～12 月 7 日までの 1 週間で 1,751 人(62.5)の報告があった。前週比 165%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\* (3.8) の約 16.4 倍であった。

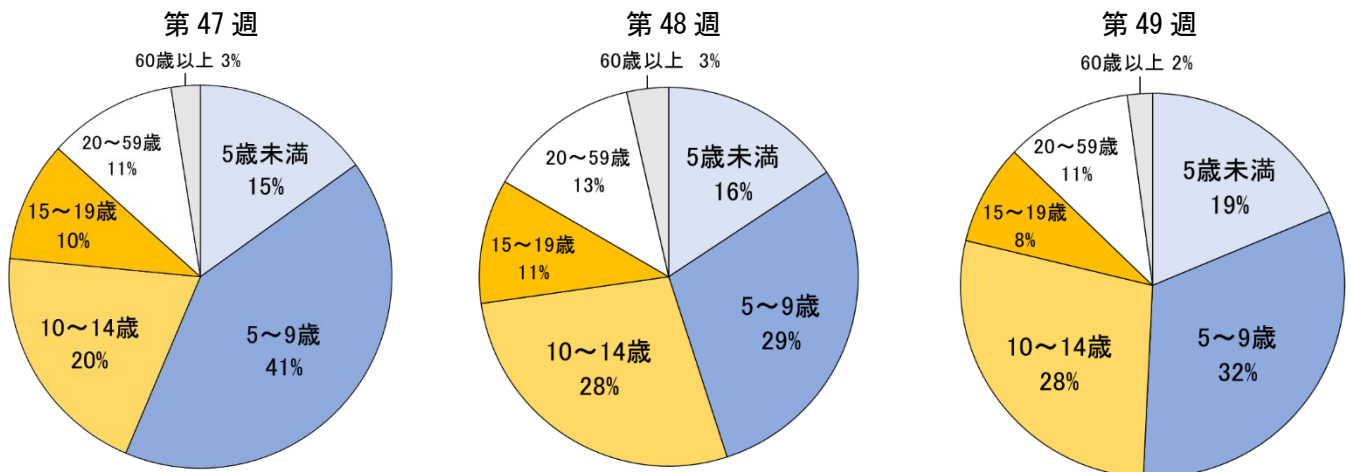
\* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値



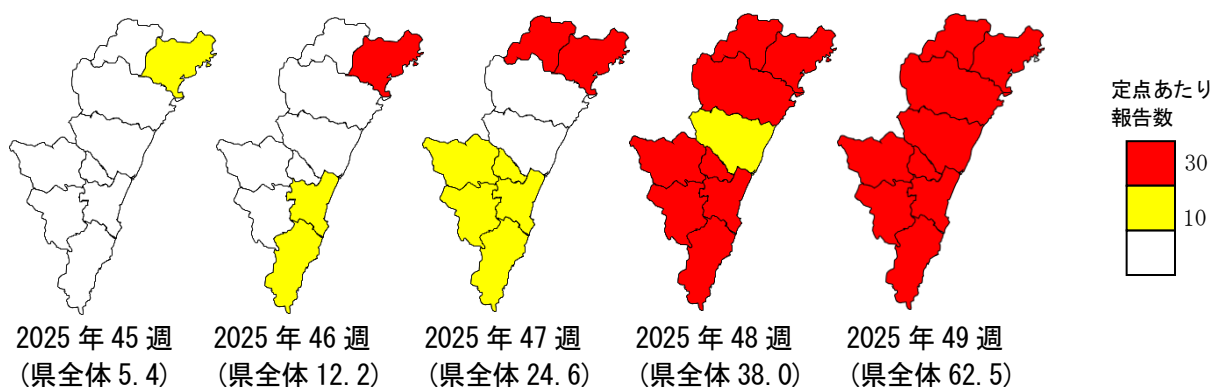
### インフルエンザ 保健所別推移(3 週分)



### インフルエンザ 年齢群別グラフ



### 保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2025 年第 45 週～2025 年第 49 週



### □ 全国第 48 週インフルエンザ発生動向

11 月 24 日～11 月 30 日までの 1 週間で 173,380 人(45.0)の報告があり、前週比 88%と減少した。埼玉県(74.8)、長野県(72.5)、福島県(64.8)からの報告が多かった。年齢群別では 5 歳未満が全体の 19%、5-9 歳が 30%、10-14 歳が 19%、15-19 歳が 7%、20-59 歳が 20%、60 歳以上が 5%であった。